

【総領事館からのお知らせ:安全対策情報:6月】

平成24年6月19日(総12第20号)
在デンパサール日本国総領事館

1 治安情勢

6月7日、バリ島爆弾テロ事件等への関与で終身刑を求刑されているウマル・パテック被告は、自らは同爆弾テロ計画には反対していた旨及びジハードは国内ではなくパレスチナなどで行うべき旨の主張を行った由です。

2 一般情勢

(1)薬物・麻薬

インドネシア政府は、6月12日からバリ島で第29回国際薬物取締会議(IDECC)を主催していますが、麻薬所持により、バリの空港で摘発される外国人は後を絶ちません(2012年に入ってから8名の外国人(マレーシア1名、豪州1名、英国2名、イタリア1名、シンガポール1名、ロシア2名)が逮捕)。今後、薬物・麻薬に対する取締りが一層強化されるものと思われます。

(2)ングラ・ライ国際空港における税関検査

最近、入国の際の空港税関において、麻薬所持の嫌疑を受け、所持品、身体(胃部X線検査を含む)に対する厳しい検査を課される事例が見られます。多くはタイやマレーシアからの直行便の乗客が嫌疑を受ける例が多いようです。麻薬の所持等は犯罪で、当国ではおとり捜査も認められています。違反した場合には厳しい刑罰が科されますので、薬物・麻薬にはくれぐれも関わらないよう注意が必要です。

(3)狂犬病

狂犬病に関連して、5月中旬、バリ島ウルワトゥ寺院において邦人が猿に噛まれる事案や、5月下旬、バリ島クタ地区の海岸(空港北側エリア)において邦人を含む数名が狂犬病陽性の野良犬に噛まれる事案が発生しました。犬や猿等に噛まれた場合には、直ちに傷口に石けんを付け、10分～15分間水で洗い流し、速やかに病院を受診するようにして下さい。狂犬病については当館ホームページ www.denpasar.id.emb-japan.go.jp/japan/04_02safe.html をご覧ください。

3 邦人事故・事件関連

(1)パンク盗

5月下旬及び6月上旬に空港からホテルに向かう車に乗った邦人旅行者がパンク盗の被害に遭いました。いずれも車のタイヤには3cm程の先の尖った金属が刺さっていました。警察によれば、雨傘の金属製骨組みを加工して足に付けオートバイで近寄り、信号待ちをしている車の後部左タイヤの側面に刺してパンクさせる手口が多く、また、釘を加工して走行中の車の前方にばらまき、パンクさせる手口もあるとのこと。既に多数の実行犯を検挙し、同様の事件は減少しているとのこと。

パンク等の異常が発生した場合には、その場で停まらず飲食店、コンビニ等人目がつきやすく、明かりのある安全な場所まで移動して停車し、車を降りる際には必ずドアロックをし、貴重品を車内に置きっぱなしにしない等の対策を行って下さい。また、犯行時間は夕方から夜間にかけてが多く、空港からホテルへの移動中や銀行、ATMを出た後が多いとのこと。パンク盗は日本では馴染みのない犯罪で、日本人には警戒心が薄くなる犯罪でもありますので、特に注意が必要です。

(2)交通事故

交通事故が多発していますが、邦人が巻き込まれる例も見られます。オートバイによる追突や接触事故をはじめ若年者によるオートバイ無免許運転の事案も散見されます。当地では、追

突された場合でも、追突された方が責任を負わされるケースも多々見られます。交通に対する一般の意識が日本とは異なることを自覚し、万が一の事故発生に備えて、日頃から安全対策に十分御留意下さい。

(3)振り込め詐欺

インドネシア国内で振り込め詐欺が依然として発生しています。詳細は6月4日付け総領事館からのお知らせを参照下さい。

以上